

テーマ別名刺交換会 記録シート

テーマ	高齢者施設を活用した子どもの居場所「フリースペース」を深堀り				
リーダー	日比（カーサ月の輪）				
進行補助	加納（県社協）	記録	文野（県社協）	参加者数	18名
<p>1. 課題提起されたこと、グループでの意見交換の視点（箇条書き）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この活動の目的は、子どもや家庭の孤立を防ぐこと。子どもだけでなく、家庭の支援をしていかないと根本的な解決は難しい。 ・大変なこともいっぱいあるが、楽しいこと、こちらが元気になれることもいっぱいある。そこを伝えていきたい。 ・昨年末に12か所目が動き出したが、その後が続いていかない。 ・社協としてこれまで施設とつながりがなかったので、どのようにつながっていけばよいのか？ ・高島市のように、行政や市社協と連携できているところもあるが、市社協とは連携できても行政と“一緒（共に）につくる”という状況にならない。 ・施設として「フリースペースに取り組んでみたい」という声に我がこととして考えてくれる職員はいるが、子どもとのつながり方がわからない。 ・滋賀の縁創造実践センターもフリースペースも活動そのものが知られていない。 ・フリースペース実施施設はどのような支援を求めているのか。お金なのか物なのか。支援したいと思う側もまずは活動そのものを知る必要がある。 ・子ども食堂は開設準備の講座などあるが、フリースペースはできないのか。 ・不登校の子だけでなく、学校に来ている子も苦しさ、しんどさを抱えている。 <p>2. 参加者の気づき、課題と感じていること（箇条書き）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知事言葉「一緒にやりましょう！」が大変うれしかった。行政にも「一緒に」という感覚を持っていただけると私たちも大変心強い。 ・今まで行政の方と話をする機会もあったが、すぐに「費用対効果」「予算が無い」という言葉が出てくる。 ・子ども食堂と違い、本人・家庭の積極的な意思のないところにこちらからアプローチを仕掛けていく活動の難しさ。子どもを施設につなぐ役割が必要。 ・フリースペースの卒業をどうとらえるか。家庭のことも含めて、コーディネーター役が必要。ここを行政に担ってもらえれば。施設でできることは限られている。 ・不登校という課題もあるが、フリースペースにも学校にもつながれていない子がいる。つながるまでの支援をどうしていくのか。 ・受け入れられる人数に限りがある。施設数、ボランティア確保、職員の配置…。だからこそ数を増やしていかないといけない。 ・この事業が職員のモチベーションアップにつながっている。施設を選ぶ決め手になった職員もいる。 ・かかわる職員、ボランティアが無理をしない。負担にならないように、続けていく。 ・フリースペースとして施設でお風呂に入ることでの気づきはいっぱいあるが、そこが負担になるのであれば無理をしない。できる範囲で継続することが大切。 					

3. 現場の課題に対応して、だれと、何を創造実践していきたいか（箇条書き）

- ・子ども食堂を小学校区に1か所、フリースペースを中学校区に1か所。まずは各市町に1か所。
- ・興味を持ってきている施設により具体的にアプローチしていく。県社協が窓口となり、フリースペース実施施設が見学や相談を受ける。「フリースペース推進委員会」がバックアップ。
- ・市社協の協力が得られないところについては、県社協がその役割を担う。
- ・フリースペースガイドブックの活用。応援したいと思ったださる企業さんに対して、社内や取引先にも宣伝してもらう。
- ・行政や学校へのアプローチとしては、地域の実情やツテをリサーチして校長先生や要職についている人とつながっていきそうな自治会長や人脈豊富な民生委員・児童委員を探し、理解してもらう。
- ・興味を持ったださった参加者には、「フリースペース交流会」にも声をかける。
- ・フリースペース活動以外で、子どもの居場所づくりをされている方々とも引き続き情報交換、連携をしていく。
- ・社協側として、現状、施設とのつながりがあまりないのであれば、まずはサロン活動などすでになんらかの地域貢献活動をされているところに相談してみる。
- ・興味を持っている（必要性を感じている）民生委員・児童委員と、施設や社協と一緒に顔を合わせる機会をつくる。